

県・市連携文化施設整備計画に関する県民意見交換会会議録（県北地区）

No.	意見の概要	県と市の回答
1	<p>駐車場について、秋田では高齢者が多く、若者であっても雨や雪のこともあり、車の利用は多いと考える。また、由利本荘市のカダーレでは駐車場が不足し、イベントによっては市役所やアクアパルの駐車場からバスで送迎している状況であり、新施設においては、立体でも200台程度の駐車場を確保してほしい。</p>	<p>一定規模の駐車場については、周辺に確保したいと考えております。</p>
2	<p>建物の外壁をコンクリートの打ちっぱなしにするのはやめてほしい。また、内装は秋田杉を使うなど、全国に誇れるような建物にしてほしい。</p>	<p>外観デザインについては、人それぞれの好みがあるため難しい問題ではありますが、内装材には秋田杉を使うことを検討してまいります。</p>
3	<p>ネーミングライツは収入面では良いと思うが、他都市の施設では愛称が多いと思うのでそのほうが良いのではないかと。</p>	<p>ネーミングライツ、愛称は、運営管理計画のなかで導入の是非を検討してまいります。</p>
4	<p>外からの人に秋田民謡をどこに行けば聴けるかとよく聞かれるが、常に聴ける場がない。生演奏が難しければ、秋田民謡を全曲録音して、ボタンを押すと好きな曲を聴けるような設備を整えてほしい。</p>	<p>民謡については、秋田駅前のフォンテ6階の「あきた文化交流発信センター」で2カ月に1回程度、無料コンサートがあり、センターの一番の人気の、毎回300人くらい集まっている。これを新施設のエントランスホールで開催できないかなどを検討してまいります。</p>
5	<p>建替えに伴い、県民会館を使えない期間が4年もあることにびっくりした。今でも大物アーティストが来ないなか、その間さらに大規模なコンサートが見られないことへどう対応するのか。</p>	<p>4年間使用できないことは大きいですが、新施設ができれば、現行施設で主催者側から指摘されている舞台の狭さも解消されるなど、大物アーティストのコンサートも増えると思われれます。その間、例えば、音響設備を仮設にすれば、県立武道館で2,500人規模のコンサートには対応できると考えております。</p>
6	<p>新施設ができたとしても、秋田市文化会館を取り壊すと市全体では、今よりホールが足りなくなると思う。新しい施設は高音質なホールを備えてほしい。また、見切り席がなるべくないようにしてほしい。</p>	<p>秋田市文化会館の小ホール分は、他施設や新施設のリハーサル室等で対応が可能であり、大きな影響はないと考えております。また、見切り席については、そういう座席ができないよう、設計の段階で留意いたします。</p>
7	<p>音の良いホールの特徴としては「残響」があり、アトリオンは全国的にも非常に良いホールである。多目的ホールという位置づけ上、やむを得ないと思うが、どの程度の音質を目指しているのか明確なものが今の案からでは感じられない。いずれ音響には十分に配慮していただきたい。 木は音響反射板の役割を果たすものであり、ホールの座席の背面上部に木を使うと音響が良くなるといわれており、ヨーロッパなどのホールでは、椅子は豪華でなくても木がそのように使われているので、参考にして音響が素晴らしい大ホールにしていきたい。</p>	<p>高機能型ホールについては、我々も音響が良いものを目指しており、例えば、音響が良いと言われているプロセニウム形式の東京文化会館を小さくしたようなものを考えております。多目的ホールであっても今は技術的に音の良いホールにできると聞いております。良い音響とするため座席に木を使うということは、初めて聞いたところであり、参考になりました。</p>

No.	意見の概要	県と市の回答
8	800人の舞台芸術型ホールについては、規模を再検討してはどうか。現在の集客状況を分析しながら、席数を決めていくべきだと思う。	舞台芸術型ホールについては、既存の秋田市文化会館の稼働状況を調べてみたところ800席以上使われている催事は全体の20%ほどであり、県民会館も1,000席で使うことが少ないことから、これらの使われ方を踏まえ800席としたものです。また、800席以上使われる演目の場合には高機能型ホールで対応できるものと考えています。
9	オーケストラピットの作り方について教えてほしい。	オーケストラピットは、オペラ、バレエでオーケストラが演奏する場所をいい、前側の客席をとりはずし、床を下部に下げる形式を想定しております。
10	可動プロセニウムとは何か。	可動プロセニウムは、演目に合わせて舞台開口高を変更させることができるものであります。
11	新文化施設に木を使うことは、秋田の宣伝にもなる。アトリオンは木を使っているので音響がやさしい。是非、大ホールには木を使って欲しい。	秋田杉等県産材の活用を検討してまいります。
12	計画を見て、舞台芸術がメインという印象を受けた。市民向けの茶道、華道、俳句、書道などの展示室は考えていないのか。	県・市連携文化施設でもエントランス等、展示にも使える場所は検討しているが、実演芸術中心の施設であり、この施設で全て賄うことはできないため、新県立美術館、市が活用しようとしている旧県立美術館、アトリオンの展示室など周辺施設と機能分担していきたいと考えてまいります。
13	倉庫との動線がよくないと苦勞するのでよく検討した方がよい。	舞台と倉庫の動線は重要であり、設計の段階で注意してまいります。
14	現行の多くの施設は、利用料金が高いことも悩みであり、料金の問題についてもご検討いただきたい。また、座席の千鳥配置は、是非していただきたい。	利用料金については、運営管理計画策定時に検討してまいります。
15	施設運営は、直営か指定管理か。	指定管理を考えているが、具体的には今後検討することとしております。
16	国庫補助等はあるのか。	財源については、国の補助制度で「暮らしにぎわい再生事業」というものがあり、公共施設の場合には補助率が10分の4となります。ただし、対象となる経費などが限られていることと、国の予算枠があるため、金額については現在精査中であり、パブリックコメントを実施する予定の10月頃には、整備計画（案）の中である程度の見通しをお示したいと考えております。

No.	意見の概要	県と市の回答
17	ネーミングライツで見込む収入はどのくらいか。	ネーミングライツによる収入は、他県の例では、500万～2,000万円など施設やスポンサー等により差がありますが、文化施設として相応しい名称も必要であり、導入の是非も含め慎重に検討してまいります。
18	センタース、にぎわい交流館、アルヴェなどの他の施設との兼ね合いをどう考えているのか。	アルヴェや賑わい交流館の多目的ホールは、集会や講演が中心となるものであり、アトリオンについてはクラシック音楽専用ホールであることから、新施設の機能とは重複しないものと考えております。
19	喫煙場所について、大物出演者がどうしても楽屋等で吸いたいと言った際は、どうするのか。	出演者の喫煙場所については、楽屋の一角に喫煙室を設けるなど対応を検討してまいります。
20	年寄りにとってカタカナは非常に難しいため、配慮していただきたい	整備計画の中に用語解説を入れるようにしてまいります。